

# 身近な水の循環 学習冊子に

## 諏訪湖クラブが作成

諏訪湖の環境改善に取り組み「諏訪湖クラブ」(沖野外輝夫会長)は、子ども向けの学習冊子「水はどこから来てどこにいくのか!」を作成した。身近な水の循環についてまとめた冊子で、諏訪地方の全小中学校や教育委員会などに寄贈する。5日には沖野会長らが諏訪市四賀小学校を訪れ、赤羽素乃校長に手渡して活用を期待した。

同クラブは2018年に策定された「諏訪湖創生ビジョン」の取り組みに、推進会議事務局のメンバーとして参加している。冊子製作は1月に発行した「諏訪湖の水生植物」「諏訪湖の治水に繋がる釜口水門」に続く5冊目。

冊子では下水をきれいにする仕組みや水が諏訪湖から太平洋に流れるまでの過程などを説明するほか、50年前の諏訪湖の様子も紹介。A4判16ページで、県地域発元気づくり支援金を活用して5000部製作した。

四賀小学校では社会科と総合的な学習の時間を融合した学びとして、4年生が上下水道の仕組みや自分たちで使う水の循

## 小中学校に寄贈へ



子ども向けの学習冊子「水はどこから来てどこにいくのか!」を手にする諏訪湖クラブの沖野会長(左)

環、諏訪湖への影響などを学習。会員らも講師として授業を行い、今回の冊子は子どもたちの疑問や難易度に合わせて内容を練った。

沖野会長(87)は「水は「水の動きに興味を持ち、諏訪湖をきれいにする意味合いを実感してくれたら」と期待。赤羽校長は「地域に根差した資料として非常に価値ある冊子。今年度中に児童へ渡し、今後も活用させていただく」と感謝した。

(松本佳林)